

# 集計キットで時間短縮と負担軽減

## 50万点達成の熊本大附属小

ある日、こんな電話がかかってきました。「大台達成校のアンケートがきましたが、いっぱい工夫したので、資料を送ってもいいでしょうか？」

4月に累計50万点を達成した熊本大学教育学部附属小学校(井福裕俊校長、児童645人)からでした。数日後、PTA環境委員長の深水陽子さんからのお手紙が財団に届きました。



同小学校の仕分け・集計作業で活躍したのが、オリジナルの「集計キット」だそうです。昨年度の環境委員長が考案し、委員全員用に18個を作成しました。

透明ケースの中に、マークを入れるためのジッパー付き透明袋と、点数を記入する明細カードが、すべてのベルマーク番号分だけ入っています。明細カードの表は整理袋と同じ体裁で、裏には分かり易いようベルマーク一覧表の該当会社の部分が貼ってあります。カードはラミネート加工してあり、記入する際は油性ペ

ンを使います。後でアルコールティッシュなどで拭けば文字が消えるので繰り返し使えます。

このキットを使って自宅で作業し、全体作業の際に持ち寄りました。インク・トナーのカートリッジの箱詰め作業などもありましたが、マークの集計は明細カードを合算するだけでよく、前年までと比べ、大幅な時間短縮になりました。

「以前は委員長が後で1人でやっていた送り状記入や発送作業も、作業時間内に終わることができました。集計から発送までの流れを知ることができて意欲向上につながりました」と深水さんは振り返ります。「これからも収集の周知を図り、委員の負担を軽減しながら、100万点を目指して頑張りたいです」



# 株式会社種清がベルマーク付き商品を紹介

創業100年を超える菓子卸売業の株式会社種清(本社・愛知県名古屋市)が7月9日と10日に開催した2019年秋季見本展示会で、ベルマーク付き商品を紹介するコーナーを設けました。

同社は「Legitimate Ethical～地域・社会への貢献～」を掲げ、社会貢献活動に取り組んでいます。Legitimateは直訳すると、「正当な」という意味です。Ethicalは、「社会や環境への配慮」といった意味合いを持ちます。

ブースには、ベルマークの大きなパネルが飾られたほか、ポスターも掲示され、マーク付き商品の一例も並びました。

同社の取引先は主要なメーカーだけでも100社近くに上ります。その中には、岩塚製菓(ベルマーク番号16)、明治(同25)、森永製菓(同26)、ブルボン(同48)、ロッテ(同57)、湖池屋(同77)といった、ベルマークを商品につけている協賛会社もあります。



# 本の帯創作コンクール 作品募集、9/3消印有効

児童向けの本に巻かれる「帯」を、小学生が自由にデザインする第15回大阪子ども「本の帯創作コンクール」(大阪読書推進会、朝日新聞大阪本社主催)が実施されています。作品は全国から募集中で、各賞の中にはベルマーク賞もあります。

締切は9月3日、消印有効。募集要項は大阪府書店商業組合のHP(www.osaka-books.ne.jp)でご覧になれます。同組合加盟の約230書店はベルマーク収集に協力しています。



# 東芝ライフスタイルの 新商品が登場

協賛会社の東芝ライフスタイル(ベルマーク番号43)が「センサー付きLEDランタン」を発売。人感・明暗センサー搭載で、暗い場所で人の動きを感知してパッと点灯するランタンです。

単3乾電池3本で使えて、持ち運びラクラクなのに、約200ルーメンという明るさ。防水性能(JIS IPX4)付きなので、雨でも使えますよ!

▽LKL-3000(W) 24点(オープン価格)



# マルトモがベルマーク商品を変更

協賛会社のマルトモ(ベルマーク番号64)は、新たに以下の商品にベルマークを付けることになりました。8月以降、順次パッケージを変更していきます。商品名、標準小売価格(税抜)、ベルマーク点数の順にご紹介します。

- かつおソフト削り 2g×6P 170円 1.7点
- 食べるにぼし 50g 300円 3点
- 国産野菜のブイヨン 4g×8袋 145円 1.5点
- かつお粉 35g 170円 1.8点

現在ベルマークが付いている商品からは、今年度内にマークが外れ、同社のマーク付き商品は上記だけになる予定です。

# ウェブベルマーク協会から助成金

一般社団法人ウェブベルマーク協会(www.webbellmark.jp/)は6月締め助成金9,074,148円を8月1日、ベルマーク財団に振り込みました。うち東北被災校支援が6,910,859円、各学校のベルマーク預金への加算は2,069,703円でした。

数か月前、財団に100万円の現金を寄付してくれた方がいます。振込のしぼらく後に、ベルマークが入った封筒も送られてきました。いずれも住所・氏名・電話番号は書かれていましたが、心当たりのある職員はいません。一体、誰なのでしょう。寄付を求めているところはたくさんあるのに、どうして財団を選んでくれたのか、どんな思い入れがベルマークにあるのか……。

電話をかけてみました。応対に出てくれたのは、ハキハキとした関西弁を話す女性。

「直接お会いしてお礼を伝えたいのですが……」と言うと、ご自宅にお招きいただけることになりました。

住宅街の一角にある普通の家です。玄関のチャイムを鳴らすと、ゆっくりとドアが開き、小柄な女性が出迎えてくれました。お年をうかがうと、84歳とのこと。人生の先輩を前に、とても緊張しましたが、「遠くからよういらっしゃいました」とコーヒを入れてくださいました。それで少し気持ちが落ち着きました。

「娘も主人も亡くなってね」。女性は語り始めました。現在、女性は一人暮らし。ご主人が亡くなったあと、娘さんと二人で暮らしていました。でも以前から心臓が悪

## 100万円を寄付のある女性と娘さんのおはなし



by ねろり



「まだ貯めてたの!」「貯めてたよ」。母娘でそんな会話を交わしました。今回送られてきたベルマークは、そのときのものでした。「大きくなってからも集めていたほどベルマークが好きだったのね」

さらに続けて、「あの子は尾木先生の大ファンだったんです」とも。尾木先生とは言うまでもなく、財団の理事も務めている、尾木ママこと教育評論家の尾木直樹さんのことです。

「尾木先生みたいな、教育熱心で授業の上手な先生に勉強を習ってみたかったなあ」「会ってみたかったなあ」。娘さんは、よくそんなことを言っていたそうです。理事への就任を新聞で知った際には「あの先生やったら、ええわあ」と話したといいます。

「とても優しい子だった」と女性は振り返ります。親思いで、「将来、面倒をみなきゃいけないから」と縁談を断り、「お金が残ったら寄付したいね」とよく話していたそうです。

大切な財産を他人(ひと)のために寄付したいと考えていた娘さんの志を、女性は大切に、行動に移しました。

「私も、もういつ死ぬかわからないから。娘も喜んでいると思います」。どうもありがとうございます。いまは、未来ある子どもたちのために使わせていただきます。栄養士の免許を持っていて、バランスの良い献立を考えるのが得意だった娘さんは、おいしいお料理をよく作ってくれたそうです。ダイニングのテーブルには、娘さんが使っていたと思われるレシピ本が積み重なっていました。お話を聞いているうちに、なんだか、すぐそばに娘さんがいるような感覚になりました。